

令和 8 年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

東海ブロック

受講番号		氏 名	
------	--	-----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- （1）試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- （2）受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- （3）本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- （4）試験開始の合図で始めてください。
- （5）解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受講番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- （6）電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- （7）試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- （8）答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席してください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 登録基幹技能者の役割に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 建設工事現場において器用面でスピード感のある施工を確保する。
2. 建設工事現場において品質面で質の高い施工を確保する。
3. 建設工事現場においてコスト面で質の高い施工を確保する。
4. 建設工事現場において施工管理面での生産性の向上を図る。

問題 2 登録基幹技能者の確保・育成・活用に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 登録基幹技能者の確保・育成・活用を促進することにより、建設生産現場の生産性の向上を図ることができる。
2. 登録基幹技能者の確保・育成・活用を促進することにより、登録基幹技能者を雇用・育成する優良な専門工事業者の受注機会の拡大を図ることができる。
3. 登録基幹技能者の確保・育成・活用を促進することにより、ドローンによる 3 次元データの収集を図ることができる。
4. 登録基幹技能者の確保・育成・活用を促進することにより、建設産業の担い手の確保・育成を図ることができる。

問題 3 建設技能者の職業能力基準やキャリアパスに関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. レベル 1 は、見習い技能者で、報告・連絡・相談等、施工上の伝達管理ができる。
2. レベル 2 は、中堅技能者で、分担された作業を手順に基づいて実施できる。
3. レベル 3 は、熟練技能者で、現場管理や施工技術について元請と協議し、作業手順を組み立てることができる。
4. レベル 4 は、上級職長で、品質・原価・工程・安全・環境等、施工上の総合的な管理ができる。

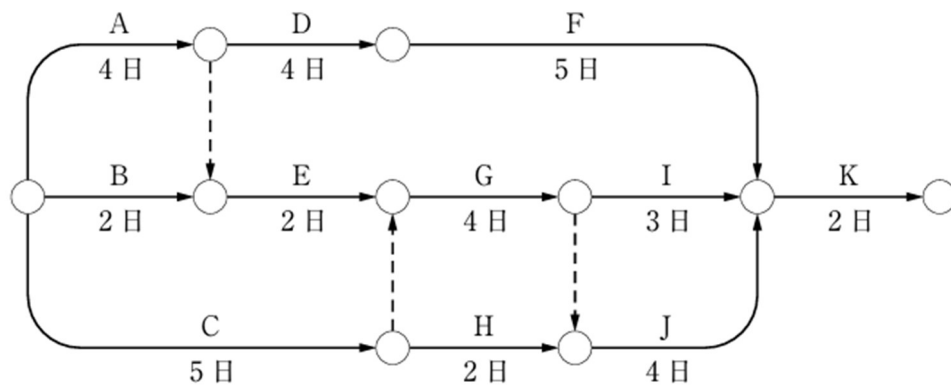
問題 4 登録基幹技能者の資質に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 発明者としての能力を有する。
2. 部下を指揮・指導することができる。
3. 他業種との連絡・調整に努めることができる。
4. 中核的役割を担うことができる。

問題5 登録基幹技能者としての倫理・法令の遵守に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 他職種の技能者が、外した足場の手すりを元通りに復帰するように注意した。
2. 他職種の技能者が、強風時に溶接作業を行っていたが、工程への影響を考慮し、そのまま作業を続けることを認めた。
3. 他職種の技能者が、足場の筋交いをはずさないように伝えた。
4. 他職種の技能者が、手抜き工事であったことを報告した。

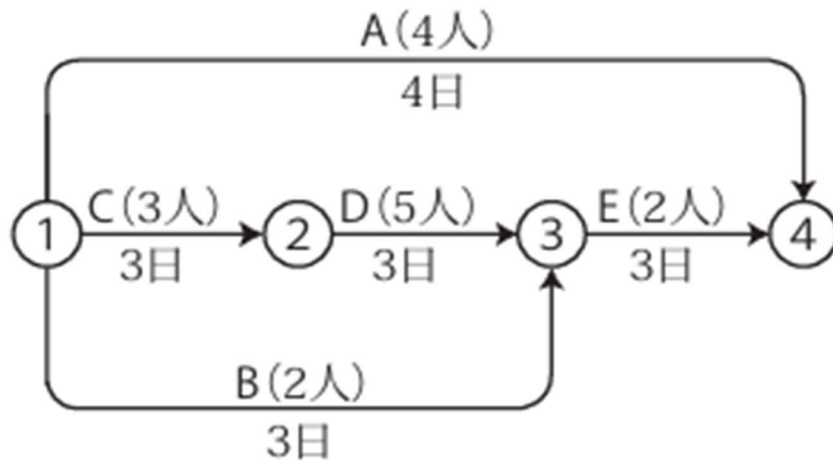
問題6 下に示すネットワーク工程表に関する次の記述に関して、最も不適当なものはどれか。



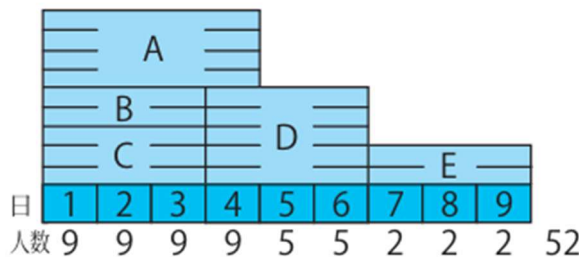
(注)  はダミーを示す。

1. この現場のクリティカルパスは、A→E→G→J→Kである。
2. C作業及びE作業が終了しなければ、G作業は開始できない。
3. この工事全体は、最短16日で終了する。
4. H作業のトータルフロート (TF) は2日、フリーフロート (FF) は3日である。

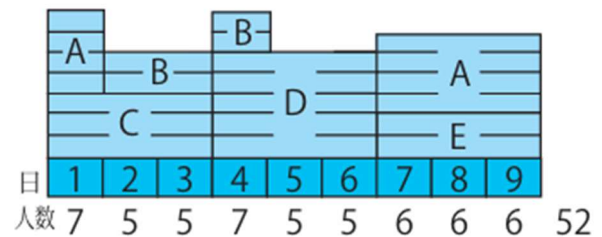
問題7 工程計画において、労務量の平準化を行う目的で労務の配分を示した山積図に関して、最も不適当なものはどれか。



山積図



山積図



山崩図

1. 山積図の最小人数と最大人数の差が7人であり、平準化されている。
2. 山崩図の最小人数と最大人数の差が2人であり、平準化されている。
3. 山崩図の最小人数は5人であり、最大人数は7人である。
4. 山積図の最小人数は2人であり、最大人数は9人である。

問題8 わが国の建設業における死亡災害事故の型別要因に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事全体では墜落が 44.0%と最も多く、次いで、建設機械が 12.6%、自動車等が 11.1%の順に多い。
2. 土木工事では墜落が 27.0%、建設機械等が 21.6%、自動車等が 13.5%の順になっている。
3. 建築工事では自動車等が 59.2%と圧倒的に多く、建設機械等が 8.0%、墜落が 7.5%である。
4. 設備工事では墜落が 35.6%、自動車等 5.8%の 2 つが飛びぬけて多い。

問題 9 新しい技術に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. トータルステーションは多くの工事現場において用いられる 3 次元測距儀で、トータルステーション本体からレーザー光線を飛ばし距離を計測する機器である。
2. 3 次元レーザースキャナは、トータルステーションと同様にレーザー光により距離を計測する光波測距儀であり、機械から周囲にレーザーを連続的に照射することにより、周辺環境の 3 次元形状を高速で取得することが出来る機器である。
3. デジタル写真測量技術は、三脚上に製図用の平板を水平にすえつけ、磁石で方位を一定に保ち、アリダード（測斜儀）で目標点を見通し、平板上に作図するものである。
4. GNSS 測量では、緯度、経度、地球楕円体高の 3 情報が取得でき、これら 3 つの座標で位置を示すことを地理座標系と呼ぶ。

問題 10 施工管理項目とその内容に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. 施工計画とは、工事の施工にあたり品質、原価、工程、安全、環境保全などについて総合的に計画し、どのように目的物を完成させるかについて計画するものである。
2. 品質管理とは、工事の進捗とともに所定の仕様通りに施工されているかチェックし、速やかに後の工程に送ることである。
3. 安全管理とは、工事の施工にあたり第 3 者や作業員の安全を確保するために行うものである。
4. 環境保安全管理とは、工事による騒音や振動、水質汚濁など環境に与える影響を最小限にするものである。

問題 11 施工計画について、**最も不適当**なものはどれか。

1. 施工計画とは、契約条件や図面、仕様書、現場説明書などにに基づき、品質、原価、工程、安全、環境保全に対する管理方法を総合的に計画したものである。
2. 総合的な施工計画とは、施工手段を効率的に組み合わせ、品質の良いものを、最大のコストで、工期内に、無事故で、環境に配慮しつつ、バランスの取れた計画を立てることである。
3. 施工計画は、PDCA サイクルの第 1 段階で、計画→実施→検討→処置のサイクルを経て、さらに検討することにより再計画へと循環する形となる。
4. 施工計画は、立案するだけでなく、各工事の進行の各段階において計画通り行われているかどうかを比較検討し、必要な是正処置がとれるようにする。

問題 12 見積原価の管理に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 建設業は、個別生産であり敷地の形状や土質、周囲の環境、近隣との協定などの現場条件を注意深く確認しなければならない。
2. 設計図書や施工図などで見積りする場合、不明確な点や図面間の相違は、標準的な想定で見積りを行い、後で精算をしなければならない。
3. 技能労働者の動員がうまくいかず突貫工事になり、連続で作業が出来ないケースは原価がかさむので、必ず工程を確認する。
4. 取合部分の施工はどの業者の責任範囲か、どんな書類の提出があるかなど、原価に直結する範囲は明確にしておかなければならない。

問題 13 専門工事業者の実行予算に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 元請が、仮設足場材を支給し、とびは「手間請け」、すなわち労務だけを請ける場合、職長は人工数を管理することで、実行予算を管理することになる。
2. 天井仕上げ工事は、一般に材工で数量契約するが、契約時の材料の数量は「設計数量」であり、周囲の端材分のロスを実行予算では考慮しなければならない。
3. 現場における実行予算管理で重要なことは、工事を予定通りに進めることであり、特に施工量に対する使用材料数量を管理することである。
4. 標準歩掛りとは、ある工事目的物の1単位の施工に要する数量を指すもので、積算作業に便利のように過去の実績情報を基にその標準的な値を定めたものである。

問題 14 品質管理に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 品質には、設計段階で定める設計品質（ねらいの品質）と、施工段階で実現する施工品質（出来栄の品質）があり、建設物では発注者も関わって決めた施工品質を最終的に設計品質で実現することになる
2. 「仕様規定」とは、特定メーカーの製品名や仮設方法や施工方法を具体的に定め、求める品質をより具体的に表現したものである。
3. 「作業標準書」とは、建設現場における施工品質を確保や向上させるために可能な範囲で標準化した作業内容を文書化したものである。
4. 建設現場の総合的品質管理において、日本の高品質の源は、ボトムアップにあり専門工事業者による地道な品質改善活動によるところが大きい。

問題 15 契約不適合責任（瑕疵担保責任）に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 改正民法により、2020 年 4 月 1 日以降の請負契約に関しては、「瑕疵」から「契約の内容に適合しないもの」へと文言が改められ、履行の追完と代金の減額請求等が規定された。
2. 改正民法は、注文者がその不適合を知ったときから 3 カ月以内にその旨を請負人に通知しないときは、履行の追完や代金減額請求等の救済を受けることが出来ないとした。
3. 瑕疵とは、物の使用価値または、交換価値を減少させる欠陥を有すること、あるいは保証された性質を有していないことである。
4. 住宅については、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に基づき、「構造耐力上主要な部分」と「雨水の浸入を防止する部分」については、瑕疵担保期間を 10 年間とすることが義務付けられている。

問題 16 下請工事契約に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 元請負人は、発注者からの早期の引渡しに応じるため、下請負人に対して一方的にかなり短い期間の工期で下請契約を締結してはいけない。
2. 元請負人は、下請負人に対して、契約単価を一方的に提示し、下請負人と合意することなく、これにより積算した額で下請契約を締結してはならない。
3. 下請負人に対して追加工事等の施工を指示した元請負人は、発注者との契約変更手続きが未了であっても下請契約の変更に応じなければならない。
4. 元請負人が発注者と締結した工期は、そのまま下請負人との下請工事契約の工期にも適用されるので、これに伴って発生した増加費用は下請負人が負担しなければならない。

問題 17 建設業法に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 元請負人が、建設廃棄物の発生がない下請工事の下請負人から、双方の協議合意の下、建設廃棄物処理費用との名目で一定額を下請代金から差し引いた。
2. 赤伝処理とは、元請負人が下請負人に費用負担を求める合理的な方法であり、安全協定会費などは合意がなくても差し引くことが出来る。
3. 元請負人が、下請契約締結後、下請負人に対して下請工事に使用する資材等の購入先を指定し下請負人に購入させ、その利益を害してはならない
4. 元請負人が、下請負人の責任及び費用負担を明確にした上でやり直し工事を下請負人に行わせその費用を下請負人に負担させた。

問題 18 左官の用語の定義について、最も不適当なものはどれか。

1. 洗い出しとは、砕石を入れた上塗りが、完全に乾燥しないうちに、噴霧器等で水洗いして、砕石の頭を洗い出して仕上げをすることを指す。
2. 色土とは、色のついた粘土の一種で、色彩のある京土が有名である。
3. 現場調合とは、予め工場などで結合材料、骨材、混和材料などが配合されたものを指す。
4. 空練りとは、主材料に混ぜ合わせる混和材（添加物）が全量むらなく均一になるまで、水を入れないで完全に行うことをいう。

問題 19 左官材料について、最も不適当なものはどれか。

1. 消石灰の湿式消化法とは、水中に生石灰を沈めて消化させる方法で、高熱を発して膨張させながら消化することである。
2. 土佐漆喰は、塩焼消石灰と3か月以上発酵させた稲藁、水を練り合わせたものとする。稲藁を発酵させることによって糊の成分とし、一般の漆喰のように糊材を混入していない。
3. 半水せっこうを主原料としたせっこうプラスターの特徴は、硬化に伴って膨張することである。
4. せっこうは、火には強く、水にも強い性質である。

問題 20 補助材料について、最も不適当なものはどれか。

1. 吸水調整材は、日本建築仕上学会規格 M101「セメントモルタル塗用吸水調整材の品質基準」に適合するものを用いる。
2. 吸水調整材には、主として合成樹脂エマルジョンが用いられ、エチレン酢酸ビニル系およびアクリル系の2種類が代表的である。
3. 吸水調整材は、主として原液で用いる。
4. 吸水調整材は、塗れば接着するという誤った認識を防ぐために、吸水調整材という呼称を使用している。

問題 21 左官下地について、最も不適当なものはどれか。

1. 下塗りに先立ち、コンクリートに、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などがある場合は、監理者に報告し、対応を協議する。
2. 不陸調整として行うつけ送り 1 回の塗り厚は、15mm 以内とし、それ以上あるときは 2 回塗り以上とする。
3. 石膏ボードの代表的な側面形状で塗り壁下地に適しているものは、ベベルエッジである。
4. 左官下地に要求される条件として、仕上げ材よりも強度・剛性の大きいことがある。

問題 22 セメントモルタル塗り工法について、最も不適当なものはどれか。

1. セメントモルタルは、練り置きするとワーカビリティが低下するため、可使時間内に使い切る必要がある。
2. セメントモルタル塗りでは、下塗りより上塗りの方が強度の高い調合とすることが望ましい。
3. 施工後は急激な乾燥を避け、必要に応じて適切な養生を行う。
4. 気温や下地条件によって、セメントモルタルの凝結時間は変化する。

問題 23 左官仕上げに要求される品質管理について、最も不適当なものはどれか。

1. 必要な塗り厚を確保することは、品質管理項目の一つである。
2. 仕上げ面の平坦さや状態が全壁面で一様であることは、品質管理に要求される。
3. 必要な強度と表面硬度を確保していれば、防水性や断熱性などの性能は含まれない。
4. 故障が発生した場合は、施工条件や下地条件なども含めて原因の調査と検証を行うことが重要である。

問題 24 ラス系下地モルタル塗り工法について、最も不適当なものはどれか。

1. セメントモルタル外壁のひび割れ防止対策として補強用ネットの施工は、有効な措置である。
2. 使用するステーブルは、ラスの種類や構法によって適正なものを選定する。
3. 防水紙は、継ぎ目を縦横とも所定の重ね代を確保し、雨水の浸入防止に配慮して施工する。
4. 木造外壁では、平ラスを主たる外装用ラスとして全面に使用できる。

問題 25 左官工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 左官の大きな特徴には、複雑な形状でも自由に形成することができる「可塑性」と、シームレスな仕上げが可能な「展伸性」という性質がある。
2. セメントモルタル塗付け後の急激な乾燥により、強度が低く接着力も不十分な塗り層となることは、剥離の原因であり、この現象を「ドライアウト」と呼ぶ。
3. 日本建築学会では、「建築工事標準仕様書・同解説（JIS）」が制定されており、左官工事は、「JIS15」となっている。
4. 施工前には、下地の状態を十分確認し、必要に応じて清掃や下地処理を行う。